

ビジネスパートナーとしての抗菌・抗ウイルス

現在、新型コロナウイルスのワクチン接種が急速に進められており、ワクチンの接種率が高まることで「集団免疫」ができることが期待されている。集団免疫ができたアフター・コロナの世の中になつても、新たな価値観や習慣は元に戻るとは思えず、最低限の衛生管理へのニーズが残るといわれている。その時、「印刷物」を安心・安全に利用できるメディアとして提供するためにも、印刷産業は抗菌・抗ウイルス印刷をどのように採用すれば効果的かを伝えていくことが、印刷クライアントにとってのベストパートナーとしての存在価値に繋がっていくのではないか。

ミカド

抗菌・抗ウイルス印刷サービス開始

新たなニーズから、市場の開拓へ

書籍・雑誌やコミックを中心とした印刷前工程の写植・版下・製版(プリプレス)技術を基盤に、文字組版や製版技術を生かした読み手に配慮した美しい誌面づくりを支援している(株)読売新聞社長では、今年から抗菌・抗ウイルス印刷のサービスを本格的に開始した。

同社の青柳恵介社長が抗菌・抗ウイルス印刷への取り組みに注目したのは、新型コロナウイルス感染拡大が急激に広がった昨年6月頃。「ドイツのVarcoote

c(バルコテック)社が、新星コーポレーション

新星コーポレーション

新星コーポレーション